

アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会(第3回)における主な意見

分野	内容
コンセプト	・ 投資を促すために、言葉の見直しや副題を付けるなどが必要。求心力のある言葉でパブリックスペースを作っていくイメージにしたい。例えば「スマート」や「wellness（ウェルネス）」 ・ 「次世代につなぐウェルネス拠点、幸せになるまち」など印象的な言葉で表現しては。安心、交流と言われても分かりにくい。 ・ 次世代拠点という言葉のイメージがつきにくい。次世代の何の拠点なのかを示す必要がある。例えば、新しいライフスタイルが生まれるなども考えられる。投資する人の視点に立った時に、訴求力が足りない印象がある。 ・ 開発コンセプトが5つのGOと乖離し1つテンションが下がってしまう印象。アジア競技大会の後利用ということがすぐわかり、わくわくするような表現が良い。 ・ カタカナを避けたのだろうが、次世代の意味についてカタカナで記載し、安心や交流につなげてはどうか。全体を包含する良いワードを練る必要がある。スーパーシティのミニ版といったイメージにより刷新できると良い。 ・ 総花的になるのは致し方ないが、次世代が何を指しているのか分かりにくい。ものづくりのその先を指すのか、次の世代層を指すのか曖昧な印象。 ・ 開発コンセプトは分かり易さが大事。コンセプトは「防災」、土地利用は「憩い」と「緑と歩行空間のネットワーク」がポイントになるのでは。 ・ 公有地であるため、市場が熟してから処分できる利点がある。そのため、ビジョンを持ちポテンシャルを上げながら開発する、段階的なまちづくりを進めるべき。コンセプトも成長していく、Ver. 1、Ver. 2のようにバージョンアップしていくこともある。 ・ 新しい夢があることをアジア大会の提案の一つにすることも考えられる。SDGsのダイバーシティに関する取組をコンセプトに入れ込むのも良い。
目指すべきまちの姿(5つの夢)	・ 民間ニーズを踏まえつつ、完成形に近づいたことは評価したい。 ・ 5つのまちの姿(Go)は象徴的で分かり易い。まとまってきたのではないかな。 ・ 5つのGOの優先順位をつけても良いのでは。事業者がターゲットを絞りやすくなる。高齢化が進んだり、新場外売場が整備されたり、学びの中に学校が準備されるなどといったなか、治安上も安心な、未来都市といった要素もいれても良い。 ・ 5つの夢はアジア大会のレガシーと考え、優先順位をつける必要がある。 ・ P6の対応に「女性が活躍できる場を拡大」とあるが、P7のまちに求められる方向性に「女性」の視点がない。 ・ 環境問題とスポーツ大会は切っても切れない関係にあるため、環境配慮を入れることは大事。分かり易い。

アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会(第3回)における主な意見

分野	内容
スポーツ・健康	・スポーツは本来勝敗を伴うもので、一般市民となじみは少ない。運動などの幅の広い表現や、スポーツはする・見る・支えるがあり、それらを入れ込んでも良いか。 ・様々な場所に身体活動ができる空間があることが理想。大きな公園だけでなく、例えば周辺に配置する歩道の各所に、ちょっとした運動が出来る空間を配置したい。 ・スポーツと健康を軸に、それによる新しい生活スタイルが生まれるエリアにとするとストーリーが明確化され、大会とのつながりも出る。GO FUTURE も、絞り込んでスポーツと健康によるイノベーションとして良いのでは。スポーツと健康により人が集まり、企業が集まり、イノベーションが発生するというストーリーができると良い。ライフスタイルとクリエイティブな活動が重要だが、名古屋にはスポーツメーカーがない。スポーツを中心とした企業が集まり、次世代を作って欲しい。
アジア・グローバル	・GO ASIA は優先してもよいだろう。地域の特色を強く出すため、公立の学校施設を誘致し、その横に国際学校（インターナショナルスクール）を併設することはどうか。シドニーの日本人学校では、オーストラリアと日本の授業をミックスしている。そのような特徴的な施設があるとよい。 ・外国人労働者が増えているが、生活と研修が必要。外国人の研修スペースを設置することも考えられるか。その横に母国の食べ物が食べられる施設を設置して、賑わいを創出することも考えられる。 ・グローバルはひとつのキー。留学生が集まり住むことができる施設も必要。 ・アジアというのは面白いが、アジアと健康はマッチングが良くなく出し方が難しい。アジアとスポーツはつながりが良い。
防災・安心安全	・南海トラフなど、どのようなハザードのリスクがあり、それに対してどう取り組むのか。今後検討していくことも含め、みんなで安心を作ることを書いた方が良い。 ・豪雨などのハザード的なものの記載はあるが、住民や企業の方を含めて、具体的にどう対応していくのかといったことを、それを含めて安心を作っていくのだということを書くと、何の誰に対する安心なのかがはっきりする。 ・防災・安心安全が不足している。例えばGREENにおいて、Safe&GREEN とするのはどうか。 ・安全であることが前提であるため、どこまで安全を担保するのかということを明確にしたほうがよい。愛西市のようにリニアの残土を利用して防災拠点にするといったこともひとつのアイデアだと思う。 ・防災減災に対する取組は必須であり、強く打ち出す必要がある。安全を官民連携して推進していくことなど、地域に対する考え方を書き込むべき。

アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会(第3回)における主な意見

分野	内容
土地利用 (全般)	・いきなり 20ha のゾーニングを論じるのではなく、周辺も含めどのように空間をデザインするか全体のコンセプトが重要。 ・安心と交流を生み出すということであれば、パブリックスペースの設置の検討が必要。元々競馬場としてひとつの空間であり、それぞれの機能で最適化したものを落とし込んだものの集合といった土地利用ではない、トータルデザインが今後必要。 ・核となる事業者が必要。例えばパブリックスペースをコアとしたまち全体で管理・運営していくことを必須とし、その空間が有効活用されるような仕立て。時代の流れに沿った“シェアリング・エコノミー”を導入したい。例として、スポーツ拠点を核として、地域連携しながら整備・運用する仕組みがあり、他の事業者も参加できると良いため、そのようなことを期待していることを記載すべき。 ・土地利用については、全体のデザインについて示した方が良い。その中では、交通動線をしっかり考えて、駅、バスなどエリア外とのつながりを踏まえながら、エリアにきた人をエリア内でどう流していくか、通過交通の抑制を含め検討してほしい。 ・L字道路は通過交通になるおそれがあるため、極端に言えば、折れ曲がるところを行き止まりにして行き来できなくすることも考えられる。南北と東西でクローズすれば、ここに来る人しか使わない道路にできる。 ・防災の面から、どう避難場所を確保するかが重要。20ha において使えるオープンスペースとして残すものとそうでないもので、時間軸でどう開発するか考える必要がある。市民に還元できるようなスペースとして欲しい。 ・土地利用については、賑わいの面積が大きくなっているが、憩いや学びがあれば、賑わいもカバーできるという認識。いかに特色を出すかが重要。 ・民間と行政の双方が災害時の避難場所として活用できるなど、民間との対話の内容を踏まえ、実現可能性のあるものは明示した方が良い。 ・賑わいではなく別の表現もあるのではないか。賑わいだけではなく、運動・スポーツが継続されていくためには、「楽しい」「楽しませる」が重要視されており、運動・スポーツにも楽しいという要素を入れてほしい。 ・賑わいよりも、喜び・楽しさという言葉が良いといったご意見があったが、それは読み手自身のことに繋がり良いと感じた。 ・現段階では明確に書けない部分もあるため、今後作りこんでいく、といった文言を入れておくが良い。 ・土地利用の図全体も、20ha だけでなく、周辺の状況も可視化した方が、緑や沿道商業、市営住宅があることが分かり説得力が増す。 ・表現方法として、骨格道路は交通の「軸」に、ゾーニングは点線で囲まらずに色をぼかして表現した方が良い。公園も道路の上側に限定せず、真ん中に憩いがあるよう、広いエリアでゾーニングした方が良い。
土地利用 (公園・スポーツ系)	・全体が公園で、必要な場所に施設を配置していく位の発想が望ましい。 ・北東に商業施設も含めたにぎわいゾーンを検討しているが、憩いのゾーンに公園を作り、そこが様々なイベントスペースとして活用されることで、常に賑わっており、ここにいけば時間をゆっくり過ごせ、刺激があり、ただ全体的には落ち着いた、治安上も安全な空間があると、周辺の住民の方が毎日のように集まってくる施設になりうると思う。

アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会(第3回)における主な意見

分野	内容
	・ いつでも・どこでも・だれとでもスポーツができるスペースづくりを目指してほしい。スペースの中でゾーニングを決めてもいいが、各ゾーニング内の取り組みを限定するのではなく、スペース全体の利用を検討してほしい。
土地利用 (住居系)	・ 10年後には、競馬場跡地周辺の空き家・空き地の増加が予想されるが、跡地開発によりそれがさらに加速する可能性がある。 ・ 地域課題からは、先端的な高齢者用の住居ゾーンの開発も想定される。
土地利用 (個別・その他)	・ 後利用として大学や病院があると、敷地内や周辺との連携がなされ、まちづくりとしても効果が目に見えるため良い。例えば、豊明団地における藤田医科大学の取り組みなど、学生と地域の両者にとって良い連携である。 ・ 物流が入っていないので良いが、やめた方が良い。近い将来、トラックが自動運転で複数台連なって走るイメージがあり、物流倉庫へそのようなトラックが出入りするようになる。また、ドローン配送も想定されるが、機械であるため必ず墜落事故は発生する。安全なイメージにならないため、そのような拠点化は避けた方が良い。 ・ 地域課題からは、グローバルな人材のワンストップサービスあるいは交流拠点の形成も想定される。 ・ 都心部にイノベーションの拠点が形成されようとしており、競馬場跡地に何か箱を作るイメージは避けた方が良い。
事業化の 進め方	・ 事業化までのスケジュールは分かるが、時間軸でどの段階でどのように開発を進めていくか、大会が終わって一気に開発するのではないことを示すと良い。 ・ まち全体での取り組みは、「期待される」という表現となっている。出来れば景観形成については必須としてほしい。 ・ パブリックデザインの調整には地区計画の運用が前提となることが想定されるため、その旨を記載した方が良い。 ・ 民間から提案されているスマートシティなどのモデル地区として位置付け、先端的なまちづくりのパートナー企業を募集する形態は考えられないか。出来れば、モデル地区としての位置づけやコンセプトを作って、その内容を実現する事業者を募る方が良い。

アジア競技大会選手村後利用基本構想有識者懇談会(第3回)における主な意見

分野	内容
エリア マネジメント	・ 区画ごとにバラバラの開発では地域イメージ転換の拠点にならない。統一感のあるまちづくり推進にエリアマネジメントが必要。 ・ エリアマネジメントの運用は、周辺地域との関わり窓口という性格もあるため、事業者に対してはそのような位置づけであることを伝える必要がある。やらなければならないという後ろ向きのニュアンスではなく、事業者にとっても必要だということ。 ・ エリアと港北エリアの全体のイメージを刷新するためには、エリアマネジメントが重要。 ・ 事業化については、県市のリーダーシップが重要。計画段階、事業化段階、エリアマネジメントにてそれぞれ公共側が具体的にどう関わっていくのかを記載すべき。最初の段階では積極的に公共が関わっていくべき。 ・ 模式図でいうと、民間事業者が真ん中にあると、事業を進めるための協議会のように見える。協議会は関係者が対等にまちづくりを検討していく場であり、それが分かるようにすべき。
周辺の まちづくり	・ 敷地内にスローモビリティなどの新たな交通手段が導入され、それにふさわしい街路空間を作って欲しい。今後は、今までの道路とは違う、新たなモビリティが走れる空間としての概念が必要になる。敷地内に新たな移動手段が導入され、将来的にはアクルスや地下鉄やおおなみ線の駅にもポートが出来て、エリア全体をつなげるよう広がっていく、そんなイメージを持ってほしい。 ・ 周辺の大通りをかなりの大型トラックが通るため、真ん中に少し静かに憩える、落ち着いた安全な空間を作りたい。車の危険性のないエリアを設け、安心安全にスローライフが楽しめる新しいイメージを作り、新しいまち「港北エリア」として売り出せると良い。 ・ 開発条件の要素であるP19「(3)計画予定地を核としたまちづくりとの連携」について、立地条件を転換するために、行政が連担して地域イメージを変える考えがあるのか、ポイントになる。 ・ 産業振興の観点では、周辺の地元企業の製品のPRや商談が出来る場などが跡地にあると良いかも知れないが、中小企業が自ら賃料を負担して施設を作るまでのニーズがあるかは不明。一方、そのような施設は、県市や経済界が整備するよりも自らやった方が良い。
選手村	・ P18に選手村との連携のイメージがあり、選手としてはわかるが、一般の方が理解するには情報が不足しており、もう少し具体的にイメージ出来るようになると良い。
場外馬券売場	・ 場外馬券売場も、地元の理解を深めるために体育館以外にも貢献してもらえると、弥富よりも土古の方が集客力があるため、そのような機能の導入は、組合にとってもメリットが出るのではないかと。 ・ 前提条件として、「新場外馬券売り場の設置」とだけ記載するとネガティブな印象を受ける。地元還元施設の設置など地域貢献もあるというニュアンスも付けくわえると良い。例えば「～開発計画やまちづくり（又はエリマネ）と整合を図るよう～」などと一言追加すると良い。